

議会だより

こさか

2018年
vol.84
平成30年2月10日発行



KOSAKAアカシアスプリント大会 スタート (12月24日、記念競技場)

- | | |
|------------------------------------|------|
| ●12月定例議会の概要
(議案一覧・賛否一覧) | 2～3 |
| ●一般質問
こんなことを聞きました(4議員) | 3～7 |
| ●委員会レポート | 8 |
| ●議員と語る会(11月実施)
の意見・要望・回答 | 9～10 |
| ●議会議員事務調査報告
(議会運営委員会・産業教育常任委員会) | 11 |
| ●議会を傍聴しませんか? | 12 |



アカシアスプリント大会表彰式

旧七滝小学校改修関連予算を計上

- ・生活バス路線運行費補助金 1,590万円
- ・旧七滝小学校改修実施設計委託 830万円
- ・マスコットキャラクター制作 350万円
- ・中学校各種大会派遣費補助金 165万円

平成29年第8回小坂町議会定例会は、12月12日から19日までの8日間
の会期で開催されました。

定例議会では、平成29年度補正予算のほか、大館市との大館圏域定住自立圏形成協定の締結や、小坂町給水条例の一部を改正する条例制定などを審議しました。

12月定例議会では、定住自立圏の形成に関する協定の締結2件、条例関係議案6件、補正予算案関係7件をそれぞれ原案のとおり可決しました。

大館市との定住自立圏形成は、中心市である大館市と産業振興や地域公共交通、移住の促進、人材育成等で連携を図りながら都市機能及び生活機能を確保し、安心して暮らせる定住自立圏を形成するということです。

さらに、請願2件のほか、陳情4件を採択し、意見書案5件を全会一致、議員発議、1件を賛成多数で可決、人事案件1件に同意して閉会しました。（下面に議案一覧）

補正予算の中には、旧七滝小学校改修実施設計委託費として830万円のほか、マスコットキャラクターの着ぐるみ制作費135万円が計上されました。

採決の際に賛否が分かれた案件の結果（12月定例議会）

○：賛成 ●：反対 欠：欠席 退：退席（議長は採決に加わりません。）

議席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	採決結果
議員名	鹿兒島 巖	船水 隆一	本田 佳子	亀田 利美	栗山 忠三	宮 信	小笠原正見	成田 直人	椿谷 竹治	小笠原憲昭	熊谷 聰	目時 重雄	
案件名													
小坂町議会の議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例制定について	●	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○		可決
西十和田トンネル建設促進に関する意見書提出について	○	○	○	○	○	○	○	○	●		○		採決

その結果、12月定例議会で
の補正予算は2760万2千
円の追加となり、平成29年度
の予算総額は43億950万1
千円となりました。

[illegible]

1 10番 小笠原憲昭 議員

1. 小坂鉄道レールパークの冬期閉園について
2. 大堰水路の管理について
3. 美しい村連合へ加入していることについて
4. 悪臭について
5. 公共施設・観光施設の管理について

2 1番 鹿兒島 巖 議員

1. 国民健康保険の広域化にかかわって
2. 後期高齢者医療にかかわって
3. 地産地消推進にかかわって
4. グリーンフィル小坂(株)の処理水問題について

3 8番 成田 直人 議員

1. 人口減少問題に対する今後の町の取り組みについて
2. SNS活用による情報発信について

4 3番 本田 佳子 議員

1. 町づくりについて
2. レールパークについて
3. 教育のあり方について

一 般

質 問

12月定例議会

こんなことを 聞きました

4議員が質問しました

▶ 一般質問では、4議員が14項目にわたって質問を行いました。次ページから質問・答弁の内容を要約してお伝えします。



一般質問とは？

一般質問は、年4回の議会定例会において行われます。議題とは関係なく、行財政全般にわたる議員主導による政策論議であるため、通告制が採用されています。通告（質問の届け出）は、議員個人の判断によります。

請願・陳情			区分
国民健康保険都道府県単位化に係る秋田県への意見書提出の陳情書	総務福祉常任委員会付託	審議された請願・陳情一覧（※議長は採決に加わりません。）	
「介護保険制度の改善、介護報酬の引き上げ、介護従事者の処遇改善と確保を国に求める」意見書提出の陳情書	総務福祉常任委員会付託	消費税を10%に増税することを中止することを国に求める意見書採択に関する陳情	
11	11		賛成
0	0		反対
採択	採択	継続審査	結果

小坂鉄道レールパーク冬期閉園はなぜか

町長 集客困難で指定管理を決定する時点で

決めています



小笠原憲昭議員

小坂鉄道レールパーク冬期閉園による通年観光は

答 平成26年度に開業して28年度まで3年間、通年営業してきましたが、冬期間は来客数も少なく、年間に占める入園者率は28年度3・3%となっていることから冬期は閉園することにしました。

観光客の動向も注視し、季節に応じてそれぞれ特徴あるエリアが強みを活かした事業を実施するとともに、他エリアや関係機関とも連携して誘客事業を行い、地域の活性化につながるよう、通年観光を考えていきたいと思っています。

大堰水路の水が全くない状態であったが管理はどのようにになっているのか

答 基本的に農業用かんがい用水路として使用しています。が、管理については、5月か

ら9月までは小坂町水利組合へ委託し、それ以外の期間は町で管理しています。

水路調整のために一時的に水門を閉めることがあり、10月の台風の時にも閉めました。が、期間が長くなったことをお詫びします。今後、長期にわたって水門を閉めたり水量を調整する時は、周辺住民に周知していきます。

美しい村連合に加入してのメリットは何か

答 この連合は、それぞれの地域が美しい景観や環境及び文化を守り育て、小さくても輝くオンリーワンに誇りを持つことを目的に、平成17年にNPO法人として設立しました。町ではその趣旨に賛同し、十和田湖の美しい景観と歴史、近代化産業遺産群と循環型社会の形成を未来に受け継ぐため、平成21年10月に連合の仲間入りを果たしました。加盟町村が63まで増えていることで、社会的な認知度も向上していると判断し、引き続き加盟して地域資源の質的向上や情報発信の強化、地

域住民の自発的活動の支援を図り、理念達成に向けた活動を推進していきたいと考えています。

悪臭についての町の対応は

問 大館市内の養豚場からの悪臭と思われるが、住民からの苦情はないか。

答 町外の養豚場からと思われる悪臭については、役場庁舎付近でも年に数回感じるころがあり、11月10日の悪臭は尋常でないレベルにありました。保健所への通報は臭気を感じる度に行っており、8月24日に保健所が来て調査をしました。が、特に問題はなかったとの説明を受けています。

原因物質ごとに基準が定められており、主なものでアンモニア5PPm以下、硫化水素0・2PPm以下、アセトアルデヒド0・5PPm以下など22種類の物質の基準値が定められています。

町では臭気の測定について現在実施していません。常時発生していないため、発生した場合に迅速な測定ができる

か、簡易な測定方法はないか、ターゲットとする原因物質は何かなどの検討をしています。と考えています。

公共施設・観光施設の管理は適切か

答 町が所有し、管理している公共施設等については、3月に「公共施設等総合管理計画」を策定し、今後の管理方針等を定め、これに基づき管理運営等を行っていきます。

教育委員会での管理では、学校施設・社会教育施設・社会体育施設については、衛生設備や空調設備等の保守点検を毎年実施しているほか、ルーフドレンの清掃や雪下ろしの必要な施設については、年に2・3回程度実施しています。各公共施設とも老朽化が進んでいますが、予防保全により、長寿命化をめざし効率的な維持管理に努めます。



来年度から県単位となるが

町の国保税はどうなるか

町長 30年度は現状維持で



鹿兒島 蔵議員

問 国保は来年度から県単位の運営となる。

一、県は12月8日に市町村ごとの1人当たり保険税額試算を明らかにしたと聞くが、町の保険税はどうなるのか。

二、保険税の重税感は大きく、県単位の広域化では抜本的な負担軽減とはならない。

放射能汚染廃棄物問題根深い 現状と今後について町民に説明の機会を

町長 町民との懇談会で説明したい

問 グリーンフィル小坂では最終処分場の排水に含まれている放射性物質を取り除くための試験を、フェロシアン化ニッケルからゼオライトに変更することだが、変更の理由は何か。

答 フェロシアン化ニッケルは実験室レベルでは水中のセシウムを二千倍に濃縮する好成績でしたが、実際の施設では実験室のようにはいかず、回収した汚泥が基準を超える

国の負担は、制度発足当時50%であったが、現在は24%程度まで減っていることが問題。国に抜本的な財政支援を求めるべきではないか。

答 県の試算では1人あたりの保険税額の試算は、29年度比92・9%と示されていることから、30年度は現状の税率で様子を見たいと考えます。

税負担についてはどの市町村でも同様と考えますので、町村会等を通じて取り組みたいと考えます。

る点と、年間でも濃度に濃淡があるが、これらはどう理解すればよいのか。

答 グリーンフィルの報告では、これらの変化について調査しながら、濃度の軽減を図る研究中的ことです。

問 放射能汚染廃棄物の問題は、発生から7年目を迎えるうとしている。

これまででは町民の暮らし向きに具体的な影響はないが、しかしこの問題は少なからぬ町民の心の奥底に積もっており、事あれば敏感に反応する状況は続いていると考える。

町民の安心・安全を担う町として、松戸市の問題、処理水問題を含めて、これまでの経過と今後の方向について町民への説明会を開催し、理解を得ることが必要ではないか。

答 町民への説明については今後開催を検討している町民との懇談会で報告・説明したいと考えます。

◎後期高齢者医療で、健康保持・健康診査事業の充実を

町長 制度をチェックし活用できるか検討

◎地産地消推進センターの設置を

町長 是非とも実現したい

グリーンフィル小坂（株）処理水のセシウム137測定結果の経緯

平成27年

検査日	1/15	2/16	3/16	4/16	5/19	6/16	7/16	8/17	9/17	10/19	11/18	12/15
	※	※	※	5.4	3.3	3.4	2.4	※	2.9	4.0	3.2	3.7

平均値3.53 (2.35)

平成28年

検査日	1/18	2/17	3/17	4/14	5/16	6/14	7/13	8/17	9/14	10/18	11/21	12/13
	4.5	4.0	3.6	4.8	5.2	3.4	4.9	3.4	3.8	4.9	5.2	5.3

平均値4.41

平成29年

検査日	1/18	2/14	3/14	4/17	5/16	6/15	7/16	8/21	9/13	10/18	11/20	
	4.5	5.4	5.8	6.1	6.8	4.0	5.6	3.7	3.9	7.0	3.1	

平均値5.08

※は検出下限値未満のため不検出

人口減少に対する今後の取り組みは

町長 各種政策を展開し結びつけたい



成田 直人議員



ふるさと小坂会会員をどう活かすか

問 移住定住促進奨励事業の成果は。

答 地方創生総合戦略において、移住定住促進プロジェクトの一つとして取り組んでおり、平成28年度は、新築住宅4件と中古住宅取得3件に対して370万円を補助、うち1件は関東圏から移住してきた方です。

平成29年度は、新築住宅2件と中古住宅取得1件に対して170万円を補助していますが、全て町内の方となっています。なお、現在、町内で住宅を新築している方が6名ほどおり、この中には移住に伴う方もいます。

また、平成28年度から移住のための体験住宅として貸し出しを行っています。1名は町内に移住する予定となっています。

問 この二か年の人口動態はどういう状況か。

答 当町の人口動態は、この二か年で362人減となり、人口の減少が続いています。

問 移住・定住を呼び込むためには「地域おこし協力隊」の若くて自由な発想が必要と考えるが、この二か年配置ができなかった理由及び今後の町の方針は。

答 平成28年度から、地域おこし協力隊を募集し、農業の6次化に向けた取り組みへの支援や新たな商品開発、行政サービス等きめ細やかな情報発信などを行う方を募集しました。平成29年度では、町内でブドウ農家として自立する意欲のある方を募集しましたが、いずれも配置には結びつきませんでした。

この間、数名の方々と面談をしましたが、公共交通、医療や娯楽などが整備されてなく、また、都会の生活とかけ離れた暮らしを望んでいない傾向にあることから、配置に結びついていないものと思われま

す。今後は、積極的な情報提供とイベント等への参加を継続するほか、地域おこし協力隊の活動内容も取り組みやすいものに見直し、粘り強く募集を続けていきます。

問 町が抱える各種問題に対

し「当町の応援団」となる小坂町出身者への呼びかけを具体化すべきと思うが。

答 ふるさと小坂会は、現在約2,100人の会員がおり、町にとっては強力な応援団であると思います。

若い世代の参加者が少なく、なっていることから、町としても若い世代の掘り起こしが必要であると認識しています。ので、ふるさと小坂会と連携を密にして、「小坂町の応援団」を増やし、よりよいまちづくりにつけていきたいと考えています。

要望 ふるさとへの恩返しをするべく、町長に面談し提言されている方を「ふるさと大使」として有効に活用すべき。

問 SNSによるコミュニケーションツールを戦略的に取り組む必要性を強く感じている。町では専門部署の設置をどう考えているか。

答 町では、平成28年度から情報発信の一元化を図るために、専門職員を配置して、町ホームページの活用促進や、小坂町公式フェイスブック及びツイッターのページ開設を



SNSによりXmasマーケットを発信

進めてきました。

公式フェイスブックは、平成24年5月に外国人への情報発信を目的に、国際交流員が英語版でスタートさせており、平成28年8月には英語と日本語の二か国語による情報発信を始めています。

公式ツイッターは、平成29年1月から開始しています。町政に関する情報や観光・イベント情報の発信のみならず、災害時の緊急情報の伝達には必須の手段であることから、これからも積極的に活用を進め、利用者と幅広いコミュニケーションを図るとともに、小坂町の魅力を広く伝えていきます。

町民の声を生かした町づくりを

町長 これまで以上に町民と議論していく



本田 佳子議員

問 町長と町民との対話が実施できているか。

答 月一回の町長面会日を開催し、町民から直接、町づくりに対しての意見を伺う機会を設けているほか、町への提言の「投書箱」を役場・セ

バーム・川上公民館・七滝支所・十和田出張所に設置しています。町長との懇談会については、平成28年7月に藤倉自治会で行って以来、開催していません。来年度早々には開催したいと考えています。

問 町長の企業訪問等、地元企業とのコミュニケーションがとれているか。

答 平成26年度に町の誘致企

業5社を訪問し、各社の工場長、社長と面接し各企業の現状や、要望等について意見交換をしています。26年度以降、直接的な企業訪問はしていませんが、町の産業振興会の集まりでは、各社の社長から近況報告や要望等について意見交換しています。今後も、町の施策への理解と協力を含め、緊密な情報交換により意思疎通を図っていききたいと思っています。



あゆみ学級と「議員と語る会」(11月24日)

レールパーク事業を赤字解消へ

町長 誘客数を増やす施策を考えていきたい

問 今後どのような工夫をして観光客やリピーターを集客し、赤字を解消していくのか。



ブルートレインあけぼの

答 営業当初は鉄道ファンの利用が多かったと思いますが、リピーターの集客を考えると、坂中会議でご提案がありました「家族向け」をターゲットにしたメニュー等の活用も検討していきたいと考えています。また、明治百年通り一帯が連携して楽しんでもらう観光施設として、今後町民の皆様からのご提案を参考にさせていただき、更なる展開を図っていききたいと考えています。

今の教育で最も大切な要素とは

教育長 子どもの人格を尊重し

様々な経験をさせ自信をつけさせること

問 現在の学校教育の難しさはどのようなものがあるか。

答 友達と一緒に遊ぶことが少なくなり、ゲームやテレビを見て過ごす時間が増え、日常の遊びの中で得られる「学び」が無くなっています。事

故防止を優先するあまり外での活動を制限する傾向にありますが、学校、家庭、地域を含めて多くの目で見守り「安心・安全」を確保しながら、子どもたちの学びの活動を広げていきたいと考えています。

問 今の教育で必要な要素とは何か。

答 学校は子どもの幸せな人生のためにあり、何事にも挑戦するために、自信をつけさせることが必要です。

方法論としては「やって見せ、言って聞かせ、やらせてみて、ほめてやる」、このことが重要と考えます。

このことを学校と共有して、これからも子どもたち一人ひとりを尊重する学校教育を充実させていきたいと考えています。



11月10日に開催された坂中議会

委員会レポート

12月定例議会の会期中における各常任委員会の審議の状況を紹介します。

なお、各常任委員会に付託された条例改正や請願、陳情等の審議結果は、2・3面の議案一覧表をご覧ください。

総務福祉 常任委員会

総務福祉常任委員会に付託された案件は、陳情4件でした。

審議の結果、陳情は3件採択すべきと決定しました。

陳情の消費税10%に増税することを中止することを国に求める意見書については、国で決まったことなので不採択という意見や、低所得者ほど負担が重くなるので採択という意見などがあり、継続審議となりました。

また、二日目の一般質問の後、11月28日から30日までに5会場で開催された「議員と語る会」での意見・要望について検討しました。

総務福祉常任委員会は、十和田湖地区と川上地区を担当し、地域の皆さんと意見交換を行いました。なお、中央地区は産業教育常任委員会と合同で開催しました。

産業教育 常任委員会

産業教育常任委員会に付託された案件は、条例改正案が2件、請願が2件でした。

審議の結果、条例改正案は可決すべき、請願は採択すべきと決定しました。

特別職の職員で非常勤のものの報酬等を改正する条例制定については、農地利用の最適化の推進に関する事務が農業委員会の必須事務に位置づけられたことから、国からの

交付金の範囲内で、農業委員が農地利用の最適化に向けた積極的な活動を推進するものであり、今後の活動及び成果に期待したいと思います。

また、最終日の本会議終了後、七滝地区と上向地区で開催された「議員と語る会」での意見・要望について検討しました。

その後、七滝地区での議員と語る会で要望があった、大雨の際に上川原の小坂川橋脚が支障となり、上川原地内にある橋脚の視察を担当課と一緒にを行いました。



上川原の橋の現状

西十和田トンネル 建設促進に関する要望活動

西十和田トンネル（仮称）

は、冬期閉鎖されている青森県平川市温川から小坂町滝ノ沢までの山岳をトンネルで結ぶ建設構想区間で、津軽方面から十和田湖への重要な観光ルートです。今までは周辺の市町村で要望活動を行ってきましたが、市町村議長同盟会を設立して、市町村長と一緒に要望活動をするものです。

12月議会では、議会全員協議会で確認のうえ、建設促進の意見書を採択して、秋田・青森両県知事に要望すること

になり、1月12日には同盟会会長の黒石市議会議長と一緒に秋田県に要望活動を行ってきました。



建設促進の意見書を手渡す目時議長

西十和田トンネル（仮称） 構想図



第27回議員と語る会の概要 (意見や要望事項と回答)

平成29年11月28日(火)〜平成29年11月30日(木)

七滝地区

一 上川原地区の小坂川橋周辺の溢水対策を要望したい。

議員 産業教育常任委員会役場担当課と現地を視察して、県に要望するように申し入れを行いました。

町 県に河床浚渫について現地確認を早急に要望します。

二 赤煉瓦館やレールパークなどのライトアップにより集客力の向上を図れないか。

町 レールパークは冬期休園となることから、赤煉瓦館等の他施設での実施に向けて、設備、管理費等も考慮して指定管理者と相談してみます。

三 緊急告知ラジオを活用しゲリラ豪雨などの不測な事態への対応を図ってほしい。

町 緊急ラジオは、弾道ミサイルや大規模地震速報など緊急の事案に使用しています。災害の恐れのある雨量情報は、メール配信で対応します。

四 議会の傍聴について、町民に一般質問の内容を事前にお知らせできないものか。

議員 町民にお知らせできる方法について検討します。

十和田湖地区

一 十和田湖県境確定交付税を十和田湖へ配分するのが期限切れとなるが今後の対応は。

町 期限後である31年以降の予定は確定していませんが、今後も十和田湖に関する事業は継続していく予定です。

二 滝ノ沢展望台から観る十和田湖が、樹木により眺望



十和田湖地区での語る会

できないので改善してほしい。

町 雪が消えてから現状を確認のうえ、県に要望・相談していきます。

三 地元住民や観光客の安全のためにも、今後も熊の駆除をお願いしたい。

町 十和田湖地域は環境省の許可が必要なので、環境省とも連携して駆除に努めます。

四 冬期間に観光客が発荷峠の駐車場から十和田湖を眺望できるように、雪の壁が高くならないような除雪について県に要望してほしい。

町 冬期間の発荷峠展望台付近は、安全管理の面から利用を遠慮いただいていますのでご理解願います。

議員 十和田湖ひめまはすは少し高いので、安くして加工品とかはできないものか。

地区 「やまづけ」という加工法があり手間やコストがかかるが、販売について考えている。

上向地区

一 七滝の上に行く道路について、大雨が降ると冠水して水が畑に流れ込むので、改善について要望したい。

町 雪が消えてから現状を確認して検討します。

二 旧鶴鉾山周辺が地滑りのため崩れているが、町としての対応は。

町 現地の確認はしているが、斜面の地盤が安定していないため測量に入れない状況です。現況が安定しだい、方法等について検討します。

三 30年度から減反制度がなくなるので、今後どういう対応をとるべきなのか。

議員 今後は農協が主体となり生産者自らが決めていくことになるので、地域での協力が必要となってくる。

町 主食用米生産目標の調整割合はなくなるが、今後も需要に応じた生産が求められるので、集荷業者等と相談して、計画的な経営をお願いしたい。

四 牛馬長根地区町道の狭い箇所の改良要望について。

議員 町に対して今一度伝えたい。

たい。

町 30年度用地買収、支障物件移転を実施し、31年度に改良工事を行う予定です。

五 熊が出没して農作物に被害が出るので、事前に檻を設置することはできないか。

議員 被害の後でないと檻の設置はできない。被害状況を写真に撮って県に申請し、認可が下りてからの設置となる。

六 七滝地区のバスを利用して土曜日に診療所を受診するときに、診療が混み合いバスに間に合わない場合がある。実態を調査して、増便していただけるよう要望したい。

町 沿線自治会や町運行事業者で組織する上向七滝線の協議会で協議したいと思っていますが、運行は民間で行っているため、容易に増便できない状況をご理解願います。

七 町で開催される消防大会や福祉、スポーツ大会等に議員も顔をだして声がけをしてほしい。

町 議会内で話したい。

川上地区

一 町の財政は大丈夫か。

議員 健全な状態である。

二 水陸両用のバスなどで、砂子沢ダムの観光活用を検討してほしい。

町 購入費用や入水路の整備、地理的な面からも、通常メニューとして行うことは不可能かと思えます。

三 日治道小坂ジャンクションから本線への乗り入れについて要望したい。

議員 町に要望したい。

町 個別箇所としては難しいので、高速道路網として計画線が認知される必要があります。現在要望活動を行っている「八戸・十和田・小坂間地域高規格道路計画」に組み込んでもらう方向で検討します。

中央地区

一 スプレー缶の廃棄の仕方について確認したい。

町 完全に使い切ってから、風通しのよい所で穴をあけて出すようお願いしている。

二 自治会活動をするうえで費用もかかるので助成金の増額について要望したい。



中央地区での語る会

議員 新規事業に取り組み場合の補助制度がある。各自治会で対処いただければと思うが、町に要望していきたい。

町 自治会連絡協議会と協議し、各自治会の活動状況を確認のうえ検討したい。

三 大館市内の養豚場からの悪臭と思うが、町の対策は。

議員 法的に問題はないと思うが、関係機関での対応について町に申し入れしたい。

町 保健所で定期的に調査をしており、8月の調査時には異常がなかったが、今後も情報収集して保健所と共に対応していきたい。

四 小坂高校がなくなれば、経済や地域活動の面からも町が寂しくなる。新高校の

場所は決まっているのか。

議員 存続を県にお願いしてきたが残念な結果である。新高校の場所や、小坂高校の特徴を踏襲していただくことなど、地元の意見を聞く協議会の場で要望していきたい。

五 私立高校や専修学校はできないものか。

議員 町立高校や、有名高校の分校誘致も検討したことがある。生徒が少ないことや、経営面からも難しいと思う。

六 昨年12月議会で、地方議員の厚生年金加入の意見書が採択されたが、可決する前に町民に説明すべきではないか。

議員 地方議員になり手がないので、身分保障の面から必要ということで採択した。反対した議員は3人いた。

七 議員が視察研修を行っているが、どのように活かされているのか。視察報告書が閲覧できるようにしてほしい。

議員 研修後に意見交換をして、定住促進や子育て支援等の各種施策に活かしている。※報告書は議会事務局で閲覧可能とした。

各地区共通

一 ワイナリーの収支は大丈夫なのか。宣伝については。

議員 当初は1万本、将来は3万本にしていこう計画。問題は、生産者の確保と作付け面積の拡大である。ワイン用だけでなく生食用も合わせないと収支は難しいようです。町をあげてPRしていかなければならないと思う。

二 十和田湖和井内地区整備の現状は。

議員 近日中に構想ができ、十和田湖の住民説明会があると聞いている。議会の中でも色々な考えがある。議会にも報告があるので、地元の見解を出してもらいたい。

町 観光案内や産直、物販機能、「十和田湖ひめます」及び「和井内貞行氏」の紹介ができる施設を考えており、32年度完成を目指したいと思っています。また、漁協施設との連携も検討します。今後、地域の意見を整理し、議会から意見をいただきながら、県や環境省とも協議して、基本的な機能をまとめていきます。

三 今年は降雪が早かったせ

いか除雪が来なかった。対応はどうなっているのか。

議員 除雪は12月からのので、町民にご迷惑をかけたと思うので町に要望したい。

町 11月の除雪は運転手や重機の準備が整っていませんので全町的には無理ですが、局地的に雪が多い場合には現在でも最小限の対応をしています。

四 レールパークの、町外へのパンフレット配布による宣伝を強化してほしい。また、「あけぼの号」宿泊者に、駅周辺で食事の対応はできないものか。

町 パンフは県内外の観光施設に設置していますが、設置場所や期間が制限されたりします。今後ご理解いただきます。なおお願いしていきます。食事の対応については、町内の飲食店で出店を検討いただきたいと考えています。現在は町内の既存の飲食店で食事提供をしていますので、町としては、直営での食事提供は考えていません。

議会議員事務調査報告

小坂町議会では、各分野の先進地の自治体を訪ねながら、自らの今後の議員活動に役立てるために先進地視察を行っています。

今年度は、議会運営委員会が10月26日から27日までの2日間、岩手県岩泉町に、産業教育常任委員会は、11月15日と16日に群馬県の2町を訪問して研修を行いました。その内容を紹介します。

議会運営委員会

平成29年10月26日・27日

岩手県 岩泉町

調査テーマ

・議会としての災害対応について

岩泉町は盛岡市などに隣接し、東は陸中海岸の太平洋を臨み、林業を主体とし、龍泉洞などの観光資源に恵まれた、人口約9600人の本州一広い町です。

岩泉町では、平成23年に東日本大震災で甚大な被害を受けた教訓から、議会がどのように動くべきかとの議論になり、平成27年に議会災害対策支援本部設置要綱を制定したとのことです。

これにより、不幸にも平成28年に台風10号豪雨災害により東日本大震災以上の被害に遭ったときに、議員全員の安否確認、災害対策支援本部の設置、被災状況及び避難所の現地調査など、スピード感、緊張感ある議会行動ができたのだと感じました。

被災者の生活再建支援、及び被災地の復旧が早期に図られるよう国に意見書を提出したり、復旧財源に充てるため、議員報酬の減額をするな



岩泉町での研修

ど、行政を支援するという共通認識を持つことができたというのは参考になりました。

また、災害があつたときは、議会事務局を通じて議員に情報を伝達するという点は、とても勉強になりました。

当町は災害の少ない町ですが、議会内で議論すること、災害に対する認識が深まり、住民の安心・安全にもつながると思います。調査内容を参考に、今後の議会活動に活かしていきたいと思っています。

産業教育常任委員会

平成29年11月16日・17日

群馬県草津町・下仁田町

調査テーマ

- ・魅力ある観光地づくりについて
- ・空き家対策を含めた移住・定住対策について

初日に研修した草津町は、群馬県の北西部に位置する人口約6500人の町です。年間宿泊客数は200万人以上を数え、サービス業を含む第3次産業の割合が9割を占める、温泉と高原、文化とスポーツの国際リゾート地です。

研修では、町長から1時間以上にわたり観光の取り組みについてお話を伺いました。町長が就任した平成23年に260万人と落ち込んでいた観光客数を、300万人以上に回復させた政治手腕には、自信に満ちあふれたものがありました。

町長が就任した平成23年に260万人と落ち込んでいた観光客数を、300万人以上に回復させた政治手腕には、自信に満ちあふれたものがありました。



草津町での研修

ライブカメラによる映像や、若い女性をターゲットにしたSNSをより効果的に活用するために、景観の統一性や照明を活用した夜の演出を図るために、議会や民間事業者の反対を押し切って、温泉市街地の町並み再生に取り組んだことが、100年後を見据えた町長のリーダーシップによるものと感心しました。

観光客は都会からの若い日本人が多く、口コミやSNSによる情報発信がいかに効果的かを改めて感じました。効果的な情報発信について今後も勉強して、町に提言していきたいと思っています。

また、17日は下仁田町で空き家対策を含めた移住・定住対策についての研修を行い、18日には東京で開催された「ふるさと小坂会」に参加して交流を深めました。

人事 案件 承認

10月臨時議会

小坂町副町長



成田祥夫氏(新任)

12月定例議会

小坂町代表監査委員



熊谷勝興氏(再任)

● 議会を傍聴しませんか？ ●

次の議会は**3月上旬**に**開会予定**です。



傍聴の手続きは簡単です。
議場の入り口で、名前と連絡先を書くだけです。
団体で来られる場合は、事前にご連絡ください。
なお、傍聴する人は次の事項を守らなければなりませんので、ご留意願います。
一、会議場内の言論に対し可否を表明しないこと。
二、いかなる理由があっても議席に入らないこと。
三、騒いだりして議事を妨害しないこと。
四、帽子、襟巻又は外とうの類を着用しないこと。
五、傘及び棒類を携帯しないこと。
六、その他議場の秩序を乱す行為をしないこと。

編集後記

編集は、議員による議会広報対策特別委員会が担当しています。現在の委員による編集は今号が最後なので各委員の所感を紹介します。

◇できる限り議会のすべてを知らせたいと努めてきました。が、誌面の制限と能力の限界で、その思いが果たせないまま任期を終えることになりました。

鹿兒島 巖

◇今年の干支、戌年は「しっかり地盤を守る、新たに何かを生む」というスタートの年として良い年と言われている。町政も必要なもの、そうでないものを判断して、山積された課題を粘り強く解決し、新たに何かが生まれる年になるよう努力したいと思っています。

宮 信

◇昨年も議会に対し、町民の皆様から関心をお寄せいただきありがとうございます。今年も皆様の声とともに新しい発想を生かし、住みよいまちづくりに努めていきます。

本田 佳子

◇早いもので、町議会選挙改選から二年間が経過するなか、立候補した者として選挙戦で訴えた公約がどこまで実現させることができたか、自省し自戒しなくてはならないと感じております。議員として具申や提言を行うことは、町政発展を思うからこそその言動であり、今後の二か年、首尾一貫とした議論を重ねていきたい。

成田 直人

◇長いようでもあつという間に、二年間の担当が終わりました。毎回メンバー全員で、写真は何を使うか、何ページは誰が担当するか、全世帯へ配布する部数を数えての袋詰め作業等、真面目に一生懸命に当たってきました。つくらくもあり、また楽しくもある経験でした。

小笠原憲昭

◇今後も、開かれた議会を目指して、議会の審議内容や意思決定の経過、行政の現状・課題を明らかにして住民に伝えていきます。町民の皆様から、議会だよりに対してのご意見等をいただければと思います。

目時 重雄